

あなたの会社は「今年の経営」を棚卸しできていますか？

— 来年の迷いを減らすための経営棚卸しチェックリスト —

「忙しかった1年だった」

それで終わってしまうと、来年の判断はまた手探りになります。

経営も在庫と同じで、分けて並べ直すことで、次の一手が見えてきます。

次の9項目で、今年の経営を整理できているか確認してみましょう。

1. うまくいったことを整理できているか (= 来年に活かせる「勝ちパターン」)

- 今年、成果につながった仕事・判断を具体的に挙げられる
- なぜうまくいったのかを言葉で説明できる
- それが「来年も再現できるか」を考えている

2. うまくいかなかったことを切り分けられているか (= 「ズレ」の特定)

- 思うように進まなかつた案件・判断を把握している
- 判断が難しかつた場面を振り返っている
- 想定と現実のズレを整理できている

3. 来年へ持ち越すテーマを整理できているか (= 未完了を「前向きな課題」に変える)

- 今年やり切れなかつた重要テーマを把握している
- 「いつまでに何を決めるか」を明確にしている
- 持ち越しを放置せず、来年の検討テーマとして位置づけている



自己診断の方法

- 各項目で「はい」と思えばチェックを入れてください
- 合計チェック数で、今の状態を確認できます

判定と改善アドバイス

8～9個：経営の棚卸しができている状態

⇒ 今年の判断やその結果が整理され、来年の方向性が見えてきます。

今後は、「来年も続けること」「見直すこと」「やめること」を明確にすることで、日々の判断が迷いにくくなります。

4～7個：整理はできているが、浅い状態

⇒ 出来事は振り返れているものの、判断の理由やズレが十分に言語化されていません。

まずは、「なぜそう判断したのか」「なぜ迷ったのか」を一段深く書き出してみましょう。

0～3個：感想で終わっている状態

⇒ 「忙しかった」という印象だけが残りやすい状況です。

最初の一歩は、「今年いちばんうまくいった判断」を1つ書き出すこと。そこから経営の整理が始まります。

活用のポイント

このチェックリストは、反省会のためのものではありません。

来年の判断をラクにするために、今年の出来事を分けて整理するためのツールです。

出来事を並べ直すだけで、「何を続けるか」「何を見直すか」「何を手放すか」が自然に見えてきます。